



学生のための
政策立案コンテスト 2018
Dチーム政策案

労働改革による健康格差の縮小
—固定残業代とインターバル規制の併用—

GEIL

理想状態

目標：30年後の健康格差問題の解決

しかし・・・

格差を100%なくすことはできない



格差が縮小することを目指す



誰もが一定以上の健康水準を満たす社会を構築

健康水準の例：日常的な運動の実施や野菜の摂取など生活習慣の改善、生活習慣病の発症・重症化予防、健康を支える社会環境の全国での整備

参考：<https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/14/dl/1-03.pdf> (2018/09/17閲覧)

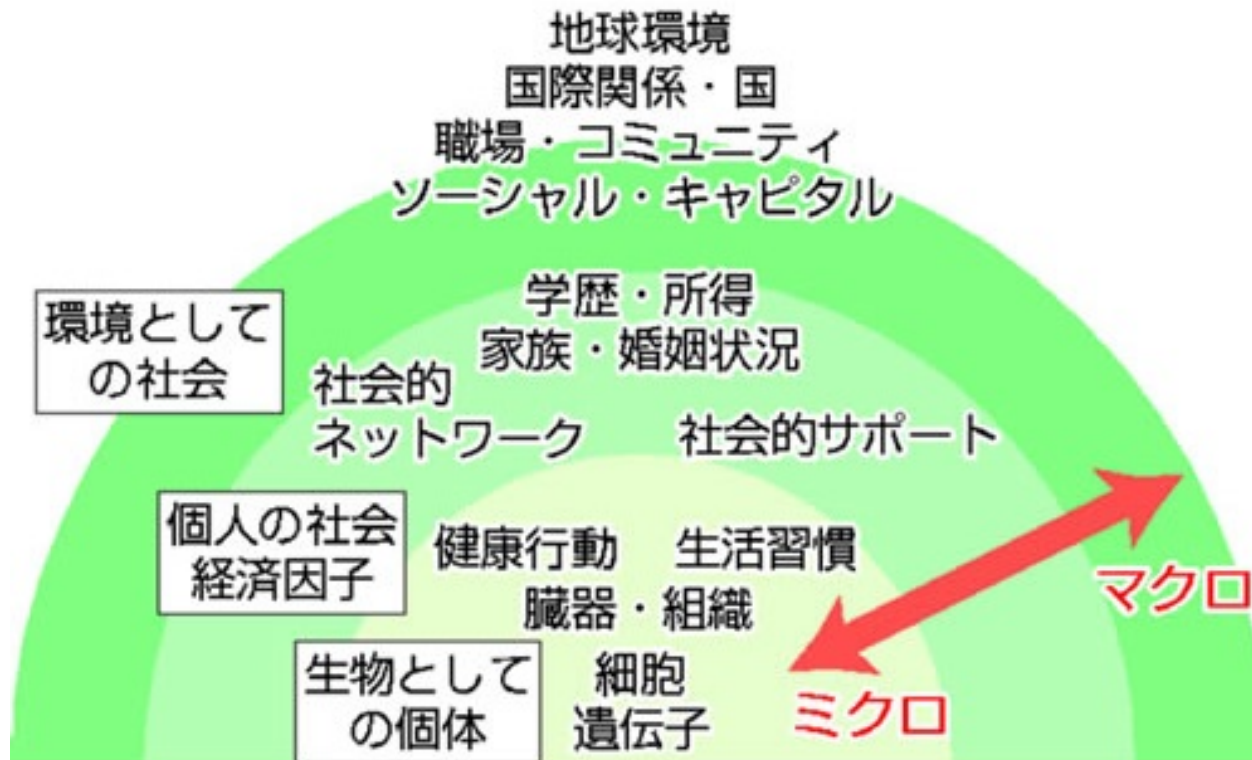


健康に影響を与えている要因とは

個人の健康に影響を与えている要因を分析



主要因は「時間」と「カネ」に大別できる



※近藤克則先生による左図を参考に個人の健康問題(病気など)、健康問題を引き起こす生活習慣、生活習慣を規定する社会経済状況を分析した結果、上結論に至った。

引用元:全日本民医連なぜ大事? SDH(健康の社会的決定要因)の視点 千葉大学教授・近藤克則さんに聞く
<https://www.min-iren.gr.jp/?p=26969> (2018/09/17閲覧)

なぜ健康でない人がいるのか？

そもそも健康になるためには

絶対的に「時間」と「カネ」が足りていることが第一条件

しかし

確保された「時間」と「カネ」をどう使うかは個人の選択に委ねられる

つまり

①時間・カネのリソースが足りていること

②そのリソースを健康行動に配分すること

の二段階に分けて対策する必要がある。

→我々のチームは①に絞った政策を立案した

私たちの政策案

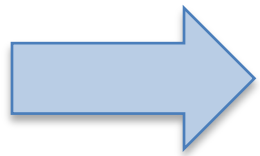
固定残業代制度

残業時間にかかわらず残業代が定額で支払われる制度



インターバル規制

終業から始業を一定時間以上あけなくてはならない制度



生産性向上・残業減少により、
現役世代の時間とカネの問題が改善



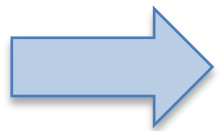
労働改革案

固定残業代制度

…残業代を、所得内時給よりも割高な一定賃金にする。

インターバル規制

…残業した日はインターバル規制(11時間)を発動。



働き方改革に対する企業のインセンティブが高まり、労働者は労働問題から解放されることで時間が生まれ、生産性の向上により賃金の上昇も見込める。



健康行動を取ることのできる時間・カネのリソースが充足され、既存の政策(第二次健康日本21など)と合わせて**健康格差の縮小**が見込める。